

(19)日本国特許庁(JP)

(12)公開特許公報(A)

(11)公開番号
特開2024-55081
(P2024-55081A)

(43)公開日 令和6年4月18日(2024.4.18)

(51)国際特許分類	F I	テーマコード (参考)
A 4 7 B 97/00 (2006.01)	A 4 7 B 97/00	M 3 B 0 5 3
A 4 7 B 13/00 (2006.01)	A 4 7 B 13/00	B

審査請求 未請求 請求項の数 10 O L (全15頁)	
(21)出願番号 特願2022-161696(P2022-161696)	(71)出願人 000000561 株式会社オカムラ 神奈川県横浜市西区北幸二丁目7番18号
(22)出願日 令和4年10月6日(2022.10.6)	(74)代理人 100149548 弁理士 松沼 泰史
	(72)発明者 戸塚 新平 神奈川県横浜市西区北幸二丁目7番18号 株式会社オカムラ内
	(72)発明者 秋山 真人 神奈川県横浜市西区北幸二丁目7番18号 株式会社オカムラ内
	Fターム (参考) 3B053 NN01

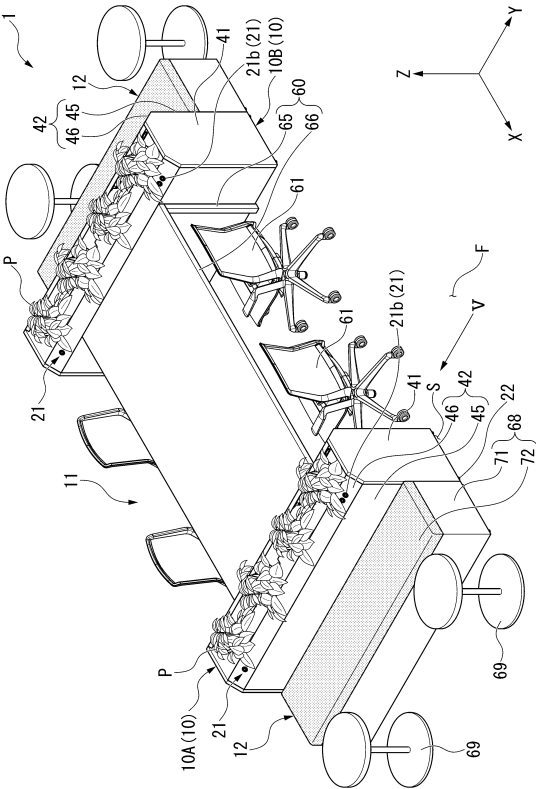
(54)【発明の名称】 配線什器及び什器システム

(57)【要約】

【課題】配線を接続する際の作業性、及び隣接什器とレイアウト性の双方を両立させることができる配線什器及び什器システムを提供する。

【解決手段】本発明の一態様に係る配線什器は、上下方向に交差する第1方向において隣接什器に隣り合って設置される。配線什器は、隣接什器に向かい合うとともに、上下方向の一方側に向かうに従い隣接什器から前記第1方向に離間する向きに延びる傾斜面を有する本体部と、傾斜面上に配置されて配線が接続される配線接続部と、を備えている。

【選択図】図1



【特許請求の範囲】**【請求項 1】**

上下方向に交差する第 1 方向において隣接什器に隣り合って設置される配線什器であって、

前記隣接什器に向かい合うとともに、上下方向の一方側に向かうに従い前記隣接什器から前記第 1 方向に離間する向きに延びる傾斜面を有する本体部と、

前記傾斜面上に配置されて配線が接続される配線接続部と、を備えている配線什器。

【請求項 2】

前記傾斜面は、上方に向かうに従い前記隣接什器から前記第 1 方向に離間する向きに延びている請求項 1 に記載の配線什器。

【請求項 3】

前記本体部は、前記傾斜面の下端縁から下方に直線状に延びる平坦面を備えている請求項 2 に記載の配線什器。

【請求項 4】

前記本体部は、箱状に形成されている請求項 1 から請求項 3 の何れか 1 項に記載の配線什器。

【請求項 5】

前記本体部の内部には、前記配線接続部から延びる配線が引き回されている請求項 4 に記載の配線什器。

【請求項 6】

前記本体部は、上方に開口する上方開口部を有し、

前記本体部の内部には、前記上方開口部を通じて物品が収容可能な物品収容空間が形成されている請求項 4 に記載の配線什器。

【請求項 7】

前記配線接続部のうち、前記配線が接続される先端面は、上下方向の一方側に向かうに従い前記隣接什器から前記第 1 方向に離間する向きに延びている請求項 1 から請求項 3 の何れか 1 項に記載の配線什器。

【請求項 8】

請求項 1 から請求項 3 の何れか 1 項に記載の配線什器と、

前記配線什器に対して上下方向に交差する第 1 方向に隣り合って配置される隣接什器と、を備えている什器システム。

【請求項 9】

前記隣接什器は、上方を向く荷重支持面を備え、

前記配線接続部は、前記荷重支持面よりも上方に位置している請求項 8 に記載の什器システム。

【請求項 10】

前記配線什器と前記隣接什器とは、前記第 1 方向に当接している請求項 8 に記載の什器システム。

【発明の詳細な説明】**【技術分野】****【0001】**

本発明は、配線什器及び什器システムに関する。

【背景技術】**【0002】**

電子機器に対して電力供給等を行う什器として、配線什器が知られている。配線什器は、テーブルや椅子等の什器（以下、隣接什器という。）に隣り合って配置される。隣接什器の使用者は、配線什器が備える配線接続部に対して電子機器の配線を接続できるようになっている。

【0003】

例えば下記特許文献 1 に記載の配線什器では、配線接続部（挿し込み口）が上方を向い

10

20

30

40

50

た状態でテーブルタップが設けられている。

また、例えば下記特許文献２に記載の配線什器は、上下方向に延びるポールと、ポールの上端部に設けられた円板状のベース部と、を備えている。ベース部の外周面には、側方に向けた状態で配線接続部（挿し込み口）が設けられている。

【先行技術文献】

【特許文献】

【０００４】

【特許文献１】特許第４８８９６１１号公報

【特許文献２】特許第６８３９０６３号公報

【発明の概要】

【発明が解決しようとする課題】

【０００５】

しかしながら、従来の配線什器では、配線を接続する際の作業性、及び隣接什器とレイアウト性の双方を両立させる点で未だ改善の余地があった。

具体的に、特許文献１の構成にあっては、配線接続部が上方を向いて設けられているため、使用者は配線什器を上方から覗き込むような状態で配線の接続作業を行う必要がある。

また、特許文献２の構成にあっては、配線接続部が側方を向いて設けられているため、配線什器と隣接什器とを接近させ過ぎると、配線の接続作業が窮屈になる。一方で、配線什器と隣接什器とを離し過ぎると、レイアウト性が低下する可能性もある。

【０００６】

本発明は、配線を接続する際の作業性、及び隣接什器とレイアウト性の双方を両立させることができる配線什器及び什器システムを提供する。

【課題を解決するための手段】

【０００７】

上記課題を解決するために、本発明は以下の態様を採用した。

（１）本発明の一態様に係る配線什器は、上下方向に交差する第１方向において隣接什器に隣り合って設置される配線什器であって、前記隣接什器に向かい合うとともに、上下方向の一方側に向かうに従い前記隣接什器から前記第１方向に離間する向きに延びる傾斜面を有する本体部と、前記傾斜面上に配置されて配線が接続される配線接続部と、を備えている。

【０００８】

本態様によれば、配線接続部が上下方向に交差する方向を向いて設けられるので、隣接什器の使用者が配線接続部に配線を接続するにあたって、配線什器を直上又は直下から覗き込む必要がない。そのため、配線の接続作業が簡単になる。

また、傾斜面が側方のみを向いて設けられている場合に比べ、隣接什器と配線什器とを接近させた場合であっても、配線接続部と隣接什器との距離を確保し易い。そのため、隣接什器と配線什器とのレイアウト性を確保した上で、配線の接続作業が窮屈になることを抑制できる。

その結果、配線を接続する際の作業性、及び隣接什器とレイアウト性の双方を両立させることができる。

【０００９】

（２）上記（１）の態様に係る配線什器において、前記傾斜面は、上方に向かうに従い前記隣接什器から前記第１方向に離間する向きに延びていることが好ましい。

本態様によれば、配線接続部が斜め上方を向くので、配線接続部の視認性を向上させることができる。その結果、配線の接続作業をより簡単に行うことができる。

【００１０】

（３）上記（２）の態様に係る配線什器において、前記本体部は、前記傾斜面の下端縁から下方に直線状に延びる平坦面を備えていることが好ましい。

本態様によれば、平坦面に隣接什器を近接又は当接させることで、配線の接続作業が隣

10

20

30

40

50

接什器によって阻害されることを抑制した上で、隣接什器と配線什器とを接近させることができる。これにより、隣接什器と配線什器とのレイアウト性を向上させることができる。

【0011】

(4) 上記(1)から(3)の何れかの態様に係る配線什器において、前記本体部は、箱状に形成されていることが好ましい。

本態様によれば、配線什器の接地安定性を向上させることができる。したがって、配線什器の転倒等を抑制できる。

【0012】

(5) 上記(4)の態様に係る配線什器において、前記本体部の内部には、前記配線接続部から延びる配線が引き回されていることが好ましい。

本態様によれば、配線を箱状部内に引き回すことで、配線が配線什器の外部に露出することを抑制し、配線什器の体裁を向上させることができる。

【0013】

(6) 上記(4)又は(5)の態様に係る配線什器において、前記本体部は、上方に開口する上方開口部を有し、前記本体部の内部には、前記上方開口部を通じて物品が収容な物品収容空間が形成されていることが好ましい。

本態様によれば、物品収容空間内に物品を収容することで、配線什器としての利便性を向上させることができる。

【0014】

(7) 上記(1)から(6)の何れかの態様に係る配線什器において、前記配線接続部のうち、前記配線が接続される先端面は、上下方向の一方側に向かうに従い前記隣接什器から前記第1方向に離間する向きに延びていることが好ましい。

本態様によれば、配線接続部の先端面が傾斜面と同様に傾斜していることで、配線什器と隣接什器とを接近させた場合であっても、隣接什器と配線接続部との間隔を確保できる。その結果、配線の接続作業が窮屈になることを抑制できる。

【0015】

(8) 本態様に係る什器システムは、上記(1)から(7)の何れか態様に係る配線什器と、前記配線什器に対して上下方向に交差する第1方向に隣り合って配置される隣接什器と、を備えていることが好ましい。

本態様によれば、上記態様に係る配線什器を備えているので、配線を接続する際の作業性、及び隣接什器とレイアウト性の双方を両立させることができる。

【0016】

(9) 上記(8)の態様に係る什器システムにおいて、前記隣接什器は、上方を向く荷重支持面を備え、前記配線接続部は、前記荷重支持面よりも上方に位置していることが好ましい。

本態様によれば、配線接続部の視認性を向上させることができるとともに、配線什器のうち配線接続部の下方に位置する部分に対して隣接什器を接近させることができる。その結果、配線を接続する際の作業性、及び隣接什器とレイアウト性をより向上させることができる。

【0017】

(10) 上記(8)又は(9)の態様に係る什器システムにおいて、前記配線什器と前記隣接什器とは、前記第1方向に当接していることが好ましい。

本態様によれば、配線什器と隣接什器との間に隙間が形成されることを抑制できる。そのため、配線什器と隣接什器との間に電子機器の配線が挟まることを抑制した上で、什器システムとしての体裁を向上させることができる。

【発明の効果】

【0018】

上記各態様によれば、配線を接続する際の作業性、及び隣接什器とレイアウト性の双方を両立させることができる。

10

20

30

40

50

【図面の簡単な説明】

【0019】

- 【図1】第1実施形態に係る什器システムの斜視図である。
【図2】第1実施形態に係る配線什器の斜視図である。
【図3】図2のIII-III線に対応する断面図である。
【図4】図2のIV-IV線に対応する断面図である。
【図5】図1のV矢視図である。
【図6】第2実施形態に係る什器システムの側面図である。
【図7】変形例に係る什器システムの側面図である。
【図8】変形例に係る什器システムの側面図である。
【図9】変形例に係る什器システムの側面図である。
【図10】変形例に係る什器システムの側面図である。

10

【発明を実施するための形態】

【0020】

次に、本発明の実施形態を図面に基づいて説明する。以下で説明する実施形態や変形例において、対応する構成については同一の符号を付して説明を省略する場合がある。なお、以下の説明において、例えば「平行」や「直交」、「中心」、「同軸」等の相対的又は絶対的な配置を示す表現は、厳密にそのような配置を表すのみならず、公差や同じ機能が得られる程度の角度や距離をもって相対的に変位している状態も表すものとする。また、本実施形態において、「向かい合う」とは、2つの面それぞれの直交方向（法線方向）が互いに一致している場合に限らず、直交方向同士が交差している場合も含んでいる。

20

【0021】

（第1実施形態）

〔什器システム1〕

図1は、什器システム1の斜視図である。

図1に示す什器システム1は、オフィスや公共施設、学校等（以下、まとめて施設等という。）に設置される。什器システム1は、配線什器10（第1配線什器10A及び第2配線什器10B）と、第1什器ユニット11と、第2什器ユニット12と、を備えている。各図では、什器システム1の向きについて座標を用いて表している。この場合、床面Fに垂直な方向（上下方向）をZ方向（+Z側が上方）とし、Z方向から見て互いに直交する方向をそれぞれX方向（第1方向）及びY方向としている。

30

【0022】

本実施形態の什器システム1において、配線什器10A、10Bは、X方向に間隔をあけて一対配置されている。第1什器ユニット11は、一対の配線什器10A、10Bの間に配置されている。第2什器ユニット12は、第1配線什器10Aに対して+X側、及び第2配線什器10Bに対して-X側にそれぞれ配置されている。各配線什器10A、10Bは、何れも同様の構成である。そのため、以下の説明では、配線什器10A、10Bを区別する必要がない場合は、まとめて配線什器10として説明する。

【0023】

<配線什器10>

図2は、配線什器10の斜視図である。

図2に示す配線什器10は、いわゆるプランターボックスとして機能を有した上で、各什器ユニット11、12の使用者が用いる電子機器と外部電源との間での電力供給を中継するものである。なお、電子機器としては、パソコンやタブレット端末、無線通信用ルータ、卓上用電気スタンド、卓上用扇風機、ディスプレイ、充電器等が挙げられる。

40

【0024】

配線什器10は、什器フレーム20と、電源タップ21と、を備えている。

什器フレーム20は、配線什器10の外観を構成する。什器フレーム20は、X方向を短手方向とし、Y方向を長手方向とする直方体形状に形成されている。什器フレーム20は、アジャスタ22を介して床面Fに接地している。したがって、什器フレーム20の下

50

面と床面 F との間には、アジャスタ 22 の高さ分の隙間 S が形成されている。

【0025】

図 3 は、図 2 の I I I - I I I 線に対応する断面図である。図 4 は、図 2 の I V - I V 線に対応する断面図である。

図 2 ～図 4 に示すように、什器フレーム 20 は、箱状部（本体部）31 と、梁部 32 と、載置部 33 と、を備えている。

箱状部 31 は、上方に開口する上方開口部 31a を有している。箱状部 31 は、周壁部 35 と、底部 36 と、を備えている。

【0026】

周壁部 35 は、配線什器 10 のうち外面に露出する部分である。周壁部 35 は、Z 方向に延びる角筒状に形成されている。具体的に、周壁部 35 は、Y 方向で向かい合う一対の第 1 壁部 41 と、X 方向で向かい合う一対の第 2 壁部 42 と、を備えている。

第 1 壁部 41 は、周壁部 35 のうち Y 方向の両端部に位置している。各第 1 壁部 41 は、Y 方向を厚さ方向として Z 方向に延びている。各第 1 壁部 41 の下面において、X 方向の両端部には、上述したアジャスタ 22 が設けられている。

【0027】

図 2 に示すように、第 1 壁部 41 の上端部において、X 方向の両端縁は、上方に向かうに従い互いに接近する向きに延びる一対の傾斜縁 41a を構成している。したがって、第 1 壁部 41 の上端部は、上方に向かうに従い X 方向の幅が漸次縮小するテーパ状に形成されている。一方、第 1 壁部 41 のうち上端部よりも下方に位置する部分は、Z 方向の全長に亘って X 方向の寸法が一樣に形成されている。図示の例において、各傾斜縁 41a は、Y 方向から見て X 方向に対称に形成されている。但し、各傾斜縁 41a における X 方向となす角度は、互いに異なっていてもよい。

【0028】

第 2 壁部 42 は、周壁部 35 のうち X 方向の両端部に位置している。各第 2 壁部 42 のうち一方（+X 側）の第 2 壁部 42 は、一対の第 1 壁部 41 における +X 側に位置する端縁同士を接続している。各第 2 壁部 42 のうち他方（-X 側）の第 2 壁部 42 は、一対の第 1 壁部 41 における -X 側に位置する端縁同士を接続している。なお、各第 2 壁部 42 は、何れも同様の構成であることから、以下の説明では、一方の第 2 壁部 42 を例にして第 2 壁部 42 の詳細を説明する。

【0029】

図 2、図 4 に示すように、第 2 壁部 42 は、起立壁 45 と、傾斜壁 46 と、を備えている。

起立壁 45 は、X 方向を厚さ方向として、Z 方向に直線状に延びている。すなわち、起立壁 45 の外面は、X 方向の外側（+X 側）を向き、Z 方向に直線状に延びる平坦面を構成している。起立壁 45 における Y 方向の両端部は、各第 1 壁部 41 のうち傾斜縁 41a よりも下方に位置する部分に固定されている。

【0030】

傾斜壁 46 は、起立壁 45 の上端部に連結されている。傾斜壁 46 は、起立壁 45 から上方に向かうに従い X 方向の内側（-X 側）に傾斜して延びている。すなわち、傾斜壁 46 の外面は、上方（上下方向の一方側）に向かうに従い -X 側に延びる傾斜面を構成している。図示の例において、傾斜面が X 方向となす角度 θ （図 4 参照）は、 $45^{\circ} \pm 15^{\circ}$ の範囲に設定されていることが好ましい。傾斜壁 46 における Y 方向の両端部は、各第 1 壁部 41 の傾斜縁 41a に固定されている。

【0031】

傾斜壁 46 における上下方向の寸法 H1 は、起立壁 45 における上下方向の寸法 H2 に比べて小さい。なお、本実施形態の傾斜壁 46 は、第 2 壁部 42 のうち Y 方向の全長に亘って形成されている構成としたが、この構成に限られない。傾斜壁 46 は、第 2 壁部 42 のうち Y 方向の一部のみに形成されていてもよい。

【0032】

10

20

30

40

50

図 3 に示すように、底部 3 6 は、Z 方向を厚さ方向として、周壁部 3 5 の下端開口部を閉塞している。具体的に、底部 3 6 は、周壁部 3 5 の内側において、第 1 壁部 4 1 及び第 2 壁部 4 2 の下端部に固定されている。底部 3 6 には、底部 3 6 を Z 方向に貫通する貫通孔 3 6 a が形成されている。図示の例において、貫通孔 3 6 a は、底部 3 6 のうち Y 方向の中央部を挟んで両側に形成されている。箱状部 3 1 の内側空間は、貫通孔 3 6 a 及び隙間 S を通じて配線什器 1 0 の外部に連通している。

【0033】

梁部 3 2 は、箱状部 3 1 の内側空間において、底部 3 6 よりも上方に位置する部分に設けられている。梁部 3 2 は、X 方向に延びるとともに、Y 方向に間隔をあけて複数設けられている。図示の例において、Y 方向の中央部に位置する梁部 3 2 は、一対の第 2 壁部 4 2 同士の間を接続している。Y 方向の両側に位置する梁部 3 2 は、一対の第 2 壁部 4 2 同士、及び対応する第 1 壁部 4 1 の間を接続している。

10

【0034】

載置部 3 3 は、箱状部 3 1 の内側空間において、梁部 3 2 よりも上方に位置する部分で、周壁部 3 5 に固定されている。載置部 3 3 は、Z 方向を厚さ方向とする板状に形成されている。載置部 3 3 は、箱状部 3 1 の内側空間において、X 方向及び Y 方向の全域に亘って形成されている。これにより、載置部 3 3 は、箱状部 3 1 の内側空間を Z 方向に仕切っている。

【0035】

箱状部 3 1 の内側空間において、載置部 3 3 よりも上方に位置する空間は、物品収容空間 3 1 b を構成している。物品収容空間 3 1 b は、上方開口部 3 1 a を通じて上方に開放されるとともに、載置部 3 3 上に物品が載置可能になっている。載置部 3 3 上には、例えば人工若しくは天然の観葉植物 P (図 1 参照) 等が載置される。但し、載置部 3 3 に載置される物品としては、観葉植物 P 以外にも、例えば書籍や照明等、種々の物品が採用可能である。

20

一方、箱状部 3 1 の内側空間において、載置部 3 3 よりも下方に位置する空間は、下方空間 3 1 c を構成している。下方空間 3 1 c は、隣り合う梁部 3 2 間の隙間や貫通孔 3 6 a を通じて下方に開放されている。

【0036】

図 2 ~ 図 4 に示すように、載置部 3 3 には、側方切欠き部 3 3 a と、中央孔 3 3 b と、が形成されている。

30

側方切欠き部 3 3 a は、載置部 3 3 における X 方向の外側に開放されるとともに、載置部 3 3 を Z 方向に貫通している。図示の例において、側方切欠き部 3 3 a は、載置部 3 3 における X 方向の両側に、Y 方向に間隔をあけて形成されている。

中央孔 3 3 b は、載置部 3 3 における X 方向の中央部において、載置部 3 3 を Z 方向に貫通している。中央孔 3 3 b は、Y 方向に間隔をあけて複数形成されている。中央孔 3 3 b は、X 方向から見て側方切欠き部 3 3 a と重なり合わない位置に形成されている。

【0037】

電源タップ 2 1 は、各傾斜壁 4 6 に設けられている。本実施形態において、各電源タップ 2 1 は、各傾斜壁 4 6 のうち Y 方向の両端部にそれぞれ設けられている。以下の説明では、一の電源タップ 2 1 を例にして電源タップ 2 1 の詳細を説明する。なお、各傾斜壁 4 6 上での電源タップ 2 1 の位置や数は適宜変更が可能である。

40

【0038】

電源タップ 2 1 は、筐体 2 1 a と、配線接続部 2 1 b と、を備えている。

筐体 2 1 a は、周壁部 3 5 の内側空間 (物品収容空間 3 1 b) から傾斜壁 4 6 の内面に固定されている。

配線接続部 2 1 b は、電子機器から延びる機器配線が接続される部分である。配線接続部 2 1 b は、筐体 2 1 a において Y 方向に並んで複数 (例えば 2 つ) 設けられている。配線接続部 2 1 b は、筐体 2 1 a が傾斜壁 4 6 に固定された状態において、斜め上方に突出している。各配線接続部 2 1 b は、傾斜壁 4 6 に形成されたコンセント用開口 4 6 a (図

50

4 参照) 内に各別に挿入されている。

【0039】

各配線接続部 21b は、コンセント用開口 46a を通じて配線什器 10 の外部に露出している。配線接続部 21b の先端面 (配線が接続される面) は、傾斜面と平行に延びている。なお、配線接続部 21b の先端面は、配線什器 10 の外部に露出する構成であれば、傾斜面に対して面一であってもよく、傾斜面に対して外側に突出していても、内側に窪んでいてもよい。また、配線接続部 21b の先端面は、少なくとも X 方向に対して傾斜していれば、X 方向とのなす角度が傾斜面の角度 θ と異なってもよい。例えば、配線接続部 21b の先端面は、Z 方向に沿って配置され、X 方向のみを向いていてもよい。

【0040】

筐体 21a には、タップ配線 (配線) 21c が引き出されている。タップ配線 21c は、箱状部 31 の内側空間において、筐体 21a から下方に延びている。タップ配線 21c は、側方切欠き部 33a や中央孔 33b を通じて下方空間 31c に引き回された後、下方空間 31c に設けられた中継用タップ 100 に接続されている。中継用タップ 100 は、例えば床面 F 上のうち什器フレーム 20 で囲まれた部分に設置されている。中継用タップ 100 は、例えば貫通孔 36a や隙間 S を通じて外部電源に接続されている。なお、中継用タップ 100 は、例えば底部 36 上に設置されていてもよい。

【0041】

<第1什器ユニット11>

図5は、図1のV矢視図である。

図1、図5に示すように、第1什器ユニット11は、長テーブル (隣接什器) 60 と、複数の椅子 61 と、を備えている。

長テーブル 60 は、支持脚 65 と、天板 66 と、を備えている。

支持脚 65 は、床面 F から起立している。本実施形態において、支持脚 65 は、天板 66 の各角部に対応する位置にそれぞれ配置されている。

【0042】

天板 66 は、X 方向を長手方向とし、Y 方向を短手方向とする平面視長形状に形成されている。天板 66 の上面は、XY 平面に延びる平坦面に形成されている。天板 66 は、各配線什器 10A, 10B に X 方向で挟まれている。具体的に、天板 66 の +X 側端面は、第1配線什器 10A における -X 側の第2壁部 42 に近接又は当接している。一方、天板 66 の -X 側端面は、第2配線什器 10B における +X 側の第2壁部 42 に +X 側から近接又は当接している。本実施形態において、天板 66 の上面 (荷重支持面) は、傾斜壁 46 よりも下方に位置している。そのため、天板 66 における X 方向を向く端面は、第2壁部 42 における起立壁 45 に近接又は当接している。すなわち、各配線什器 10A, 10B の傾斜壁 46 は、天板 66 の上面に対して上方に突出している。

【0043】

天板 66 の Y 方向の寸法は、各配線什器 10A, 10B (什器フレーム 20) における Y 方向の寸法よりも小さい。したがって、図示の例において、各配線什器 10A, 10B は、天板 66 に対して Y 方向の両側に突出している。各配線什器 10A, 10B における傾斜壁 46 のうち天板 66 に対して Y 方向の両側に突出した部分には、上述した配線接続部 21b が配置されている。

【0044】

椅子 61 は、長テーブル 60 に対して Y 方向の両側に X 方向に並んで 2 つずつ設けられている。各椅子 61 のうち、+X 側に配置された椅子 61 に対して +X 側には、第1配線什器 10A の配線接続部 21b が配置されている。各椅子 61 のうち、-X 側に配置された椅子に対して -X 側には、第2配線什器 10B の配線接続部 21b が配置されている。

【0045】

<第2什器ユニット12>

各第2什器ユニット12は、ベンチ (隣接什器) 68 と、丸テーブル 69 と、を備えている。各第2什器ユニット12は、何れも同様の構成をなしている。そのため、第1配線

10

20

30

40

50

什器 10 A に対して + X 側に配置された第 2 什器ユニット 12 を例にして、第 2 什器ユニット 12 の詳細について説明する。

【0046】

ベンチ 68 は、Y 方向を長手方向とする直方体形状に形成されている。ベンチ 68 の Y 方向の寸法は、第 1 配線什器 10 A における Y 方向の寸法と同等になっている。図示の例において、ベンチ 68 における Y 方向の両端面は、第 1 配線什器 10 A における Y 方向の両端面（第 1 壁部 41）と面一に配置されている。但し、ベンチ 68 は、第 1 配線什器 10 A に対して Y 方向の外側に突出していても、Y 方向の内側に窪んでいてもよい。

【0047】

ベンチ 68 は、支持構造体 71 と、座クッション 72 と、を備えている。

10

支持構造体 71 は、Y 方向を長手方向とする箱型に形成されている。

座クッション 72 は、支持構造体 71 の上面に設けられている。座クッション 72 は、弾性変形可能なクッション材が表皮材に覆われた構成である。座クッション 72 の上面（荷重支持面）は、使用者が着座可能な着座面を構成している。

【0048】

ベンチ 68（支持構造体 71 及び座クッション 72 の少なくとも一方）における - X 側端面は、第 1 配線什器 10 A における + X 側の第 2 壁部 42 に X 方向で近接又は当接している。本実施形態において、座クッション 72 の上面は、第 1 配線什器 10 A の傾斜壁 46 よりも下方に位置している。具体的に、座クッション 72 の上面は、起立壁 45 における上下方向の中央部に位置している。したがって、起立壁 45 のうち座クッション 72 のよりも上方に位置する部分は、背凭れとしての機能を有している。

20

【0049】

丸テーブル 69 は、ベンチ 68 に対して X 方向の外側に配置されている。丸テーブル 69 の天板上には、電子機器が載置可能になっている。

【0050】

【什器システム 1 の使用方法】

次に、什器システム 1 の仕様方法として、第 1 什器ユニット 11 や第 2 什器ユニット 12 の使用者が配線什器 10 を使用する際の方法について説明する。

まず、第 1 什器ユニット 11 の使用者は、椅子 61 に着座した状態で、天板 66 上に電子機器を配置する。

30

【0051】

本実施形態において、配線什器 10 のうち天板 66 に対して Y 方向の外側に突出するとともに、天板 66 に対して上方に位置する部分には、斜め上方に向く配線接続部 21 b が配置されている。したがって、第 1 什器ユニット 11 の使用者は、天板 66 上に配置された電子機器の配線（機器配線）を、椅子 61 に対して X 方向の外側に配置された配線接続部 21 b に接続することができる。これにより、第 1 什器ユニット 11 の使用者は、中継用タップ 100 及び電源タップ 21 を介して外部電源から電子機器に電力が供給された状態で電子機器を使用することができる。

【0052】

一方、第 2 什器ユニット 12 の使用者は、ベンチ 68 に着座した状態で、自身の大腿部の上、若しくは丸テーブル 69 上に電子機器を載置して電子機器を使用することができる。

40

【0053】

本実施形態において、ベンチ 68 に対して上方に位置する部分には、斜め上方に向く配線接続部 21 b が配置されている。したがって、第 2 什器ユニット 12 の使用者は、電子機器の機器配線を配線接続部 21 b に接続することができる。これにより、第 2 什器ユニット 12 の使用者は、中継用タップ 100 及び電源タップ 21 を介して外部電源から電子機器に電力が供給された状態で電子機器を使用することができる。

【0054】

ここで、本実施形態の配線什器 10 は、隣接什器（第 1 什器ユニット 11 又は第 2 什器

50

ユニット１２）に向かい合うとともに、上方に向かうに従い隣接什器から向きに延びる傾斜面を有する箱状部３１と、傾斜面上に配置されて配線が接続される配線接続部２１ｂと、を備えている構成とした。

この構成によれば、配線接続部２１ｂが上下方向に交差する方向を向いて設けられるので、隣接什器の使用者が配線接続部２１ｂに配線を接続するにあたって、配線什器１０を直上又は直下から覗き込む必要がない。そのため、配線の接続作業が簡単になる。

また、配線接続部２１ｂ（傾斜面）が側方のみを向いて設けられている場合に比べ、隣接什器と配線什器１０とを接近させた場合であっても、配線接続部２１ｂと隣接什器との距離を確保し易い。そのため、隣接什器と配線什器１０とのレイアウト性を確保した上で、配線の接続作業が窮屈になることを抑制できる。

その結果、配線を接続する際の作業性、及び隣接什器とレイアウト性の双方を両立させることができる。

【００５５】

本実施形態の配線什器１０において、傾斜面は上方に向かうに従い隣接什器から離間する向きに延びている構成とした。

この構成によれば、配線接続部２１ｂが斜め上方を向くので、配線接続部２１ｂの視認性を向上させることができる。その結果、配線の接続作業をより簡単に行うことができる。

【００５６】

本実施形態の配線什器１０において、什器フレーム２０は、傾斜面の下端縁から下方に直線状に延びる平坦面を備えている構成とした。

この構成によれば、平坦面に隣接什器を近接又は当接させることで、配線の接続作業が隣接什器によって阻害されることを抑制した上で、隣接什器と配線什器１０とを接近させることができる。これにより、隣接什器と配線什器１０とのレイアウト性を向上させることができる。

【００５７】

本実施形態の配線什器１０は、傾斜面を有する箱状部３１を備えている構成とした。

この構成によれば、配線什器１０の接地安定性を向上させることができる。したがって、配線什器１０の転倒等を抑制できる。

【００５８】

本実施形態の配線什器１０において、箱状部３１の内部には、配線接続部２１ｂから延びるタップ配線２１ｃが引き回されている構成とした。

この構成によれば、タップ配線２１ｃを箱状部３１内に引き回すことで、タップ配線２１ｃが配線什器１０の外部に露出することを抑制し、配線什器１０の体裁を向上させることができる。

【００５９】

本実施形態の配線什器１０において、箱状部３１の内部には、上方開口部３１ａを通じて物品が収容可能な物品収容空間３１ｂが形成されている構成とした。

この構成によれば、物品収容空間３１ｂ内に物品を収容することで、配線什器１０としての利便性を向上させることができる。

【００６０】

本実施形態の配線什器１０において、傾斜壁４６におけるＹ方向の両端部に電源タップ２１が設けられている構成とした。

この構成によれば、電源タップ２１同士が離間して配置されるので、複数の使用者が配線什器１０を使用する場合に、Ｙ方向で隣り合う使用者が使用すべき電源タップ２１を識別させ易い。

【００６１】

本実施形態の配線什器１０において、配線接続部２１ｂの先端面は、上方に向かうに従い隣接什器から向きに延びる構成とした。

この構成によれば、配線接続部２１ｂの先端面が傾斜面と同様に傾斜していることで、

10

20

30

40

50

配線什器 10 と隣接什器とを接近させた場合であっても、隣接什器と配線接続部 21b との間隔を確保できる。その結果、配線の接続作業が窮屈になることを抑制できる。

【0062】

本実施形態の什器システム 1 では、上述した配線什器 10 を備えているので、配線を接続する際の作業性、及び隣接什器とレイアウト性の双方を両立させることができる。

【0063】

本実施形態の什器システム 1 において、配線接続部 21b が荷重支持面（天板 66 の上面又は座クッション 72 の上面）よりも上方に突出している構成とした。

この構成によれば、配線接続部 21b の視認性を向上させることができるとともに、配線什器 10 のうち配線接続部 21b の下方に位置する部分に対して隣接什器を接近させることができる。その結果、配線を接続する際の作業性、及び隣接什器とレイアウト性をより向上させることができる。

【0064】

本実施形態の什器システム 1 において、配線什器 10 と隣接什器とが X 方向で当接している構成とした。

この構成によれば、配線什器 10 と隣接什器との間に隙間が形成されることを抑制できる。そのため、配線什器 10 と隣接什器との間に電子機器の配線が挟まることを抑制した上で、什器システム 1 としての体裁を向上させることができる。

【0065】

（第 2 実施形態）

図 6 は、第 2 実施形態に係る什器システム 1 の側面図である。本実施形態では、隣接什器としてカウンターテーブル 150 を採用している点で第 1 実施形態と相違している。

図 6 に示すように、カウンターテーブル 150 は、一対の支持脚 151 と、天板 152 と、を備えている。

一対の支持脚 151 は、Y 方向に離間した状態で床面 F から起立している。

【0066】

天板 152 は、X 方向を短手方向とし、Y 方向を長手方向とする平面視で長方形に形成されている。天板 152 は、一対の支持脚 151 の上端部間に架け渡されている。天板 152 における Y 方向の寸法は、配線什器 10 における Y 方向の寸法と同等になっている。天板 152 の +X 側端面は、配線什器 10 のうち -X 側に位置する起立壁 45 に近接又は当接している。なお、天板 152 の X 方向の寸法が大きいものほど、X 方向に対する傾斜壁 46（傾斜面）の角度 θ を大きくすることが好ましい。

【0067】

本実施形態においても、上述した第 1 実施形態と同様の作用効果を奏することができる。

【0068】

（変形例）

以下、配線什器 10 及び什器システム 1 の変形例について図 7～図 10 を用いて説明する。図 7～図 10 に示す変形例において、隣接什器としての天板付什器 200 は、例えば天板 201 と、支持脚 202 と、を備えている。

上述した各実施形態では、各第 2 壁部 42 のそれぞれが傾斜壁 46 を備える構成について説明したが、この構成に限られない。例えば図 7 に示すように、傾斜壁 46 は、一方（例えば +X 側）の第 2 壁部 42 のみに設けられる構成であってもよい。この場合、配線什器 10（什器フレーム 20）のうち -X 側の第 2 壁部 42 は上下方向の全長に亘って直線状に延びている。

【0069】

上述した実施形態では、傾斜壁 46 の全体が隣接什器よりも上方に位置する構成について説明したが、この構成に限られない。例えば図 8 に示すように、傾斜壁 46 は、天板付什器 200 の天板 201 に対して上下方向の両側に突出していてもよい。

上述した実施形態では、第 2 壁部 42 が起立壁 45 及び傾斜壁 46 を備える構成につい

10

20

30

40

50

て説明したが、この構成に限られない。例えば図 9 に示すように、一対の第 2 壁部 4 2 のうち、一方の第 2 壁部 4 2 は傾斜壁 4 6 のみを備え、他方の第 2 壁部 4 2 は起立壁 4 5 のみを備える構成であってもよい。

【0070】

上述した実施形態では、傾斜壁 4 6 が上方に向かうに従い天板付什器 2 0 0 から離間する向きに傾斜する構成について説明したが、この構成に限られない。例えば図 1 0 に示すように、傾斜壁 4 6 は、下方に向かうに従い天板付什器 2 0 0 から離間する向きに傾斜していてもよい。図 1 0 の例において、傾斜壁 4 6 の上端縁には、上方に向けて直線状に延びる起立壁 4 5 が連なっている。なお、第 2 壁部 4 2 は、下端部において上方に向かうに従い天板付什器 2 0 0 に接近する向きに傾斜する傾斜壁 4 6 を備え、上端部において上方に向かうに従い天板付什器 2 0 0 から離間する向きに傾斜する傾斜壁 4 6 を備える構成であってもよい。

10

【0071】

(その他の変形例)

以上、本発明の好ましい実施形態を説明したが、本発明はこれら実施形態に限定されることはない。本発明の趣旨を逸脱しない範囲で、構成の付加、省略、置換、及びその他の変更が可能である。本発明は上述した説明によって限定されることはなく、添付の特許請求の範囲によってのみ限定される。

上述した実施形態では、配線什器 1 0 が箱型に形成された構成について説明したが、この構成に限られない。配線什器 1 0 は、板状や、柱状等に形成されていてもよい。配線什器 1 0 を板状に形成する場合には、例えば傾斜壁のうち配線接続部 2 1 b が開口する面と反対側を向く面を、脚で支持する構成等を採用してもよい。

20

上述した実施形態では、配線什器 1 0 が側面視で台形状又は三角形に形成された構成について説明したが、この構成に限られない。配線什器 1 0 は、一方の面が上方に向かうに従い隣接什器から離間する向きに傾斜する傾斜面を有し、他方の面が下方に向かうに従い隣接什器から離間する向きに傾斜する傾斜面を有する平行四辺形状に形成されていてもよい。

【0072】

上述した実施形態では、傾斜面が一面又は向かい合う一対の面に形成された構成について説明したが、この構成に限られない。傾斜面は、箱状部 3 1 の各面に形成されていてもよい。また、配線什器 1 0 のうち隣接什器と向かい合う面は、平面視で円弧状等に形成されていてもよい。

30

上述した実施形態では、配線什器 1 0 の箱状部 3 1 が物品収容空間 3 1 b を備える構成について説明したが、この構成に限られない。配線什器 1 0 は、物品収容空間 3 1 b を備えない構成であってもよい。

上述した実施形態では、配線接続部 2 1 b が傾斜壁 4 6 に形成される構成について説明したが、この構成に限られない。配線接続部 2 1 b は、傾斜面上で開口していればよい。

【0073】

上述した実施形態では、配線接続部 2 1 b としてコンセントプラグの挿し込み口を例にして説明したが、この構成に限られない。配線接続部 2 1 b は、例えば USB (Universal Serial Bus) コネクタ受け、LAN (Local Area Network) コネクタ受け等であってもよい。

40

上述した実施形態では、隣接什器として荷重支持面を備える構成について説明したが、この構成に限られない。隣接什器は、配線什器 1 0 に向かい合って配置されるものであれば、種々の什器が採用可能である。また、隣接什器は、床面 F 上を移動可能なものであって、例えば不使用時において配線什器 1 0 に対して接近し、使用時において配線什器 1 0 に離間するものであってもよい。

上述した実施形態では、タップ配線 2 1 c が箱状部 3 1 の内部空間を引き回す構成について説明したが、この構成に限られない。タップ配線 2 1 c は、箱状部 3 1 の外部を引き回してもよい。また、上述した、配線什器 1 0 を柱状にする場合においても同様である。

50

その場合、タップ配線 21c が床面 F 上で人の通行の妨げにならないよう、タップ配線 21c を配線什器 10 の外周面に沿わせて下方に引き回したうえで、別途カバー部材等で遮蔽することが望ましい。

【0074】

その他、本発明の趣旨を逸脱しない範囲で、上述した実施形態における構成要素を周知の構成要素に置き換えることは適宜可能であり、また、上述した各変形例を適宜組み合わせてもよい。

【符号の説明】

【0075】

1：什器システム

10：配線什器

10A：第1配線什器（配線什器）

10B：第2配線什器（配線什器）

21b：配線接続部

31：箱状部（本体部）

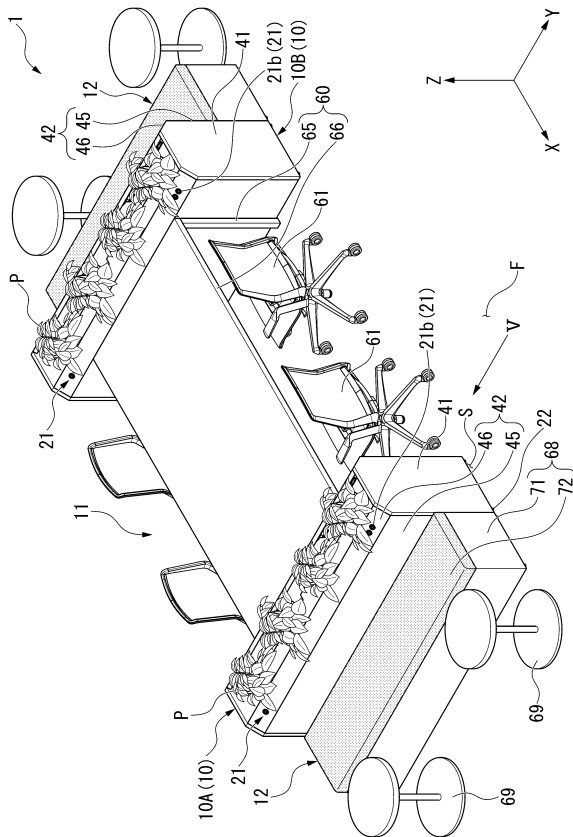
31a：上方開口部

60：長テーブル（隣接什器）

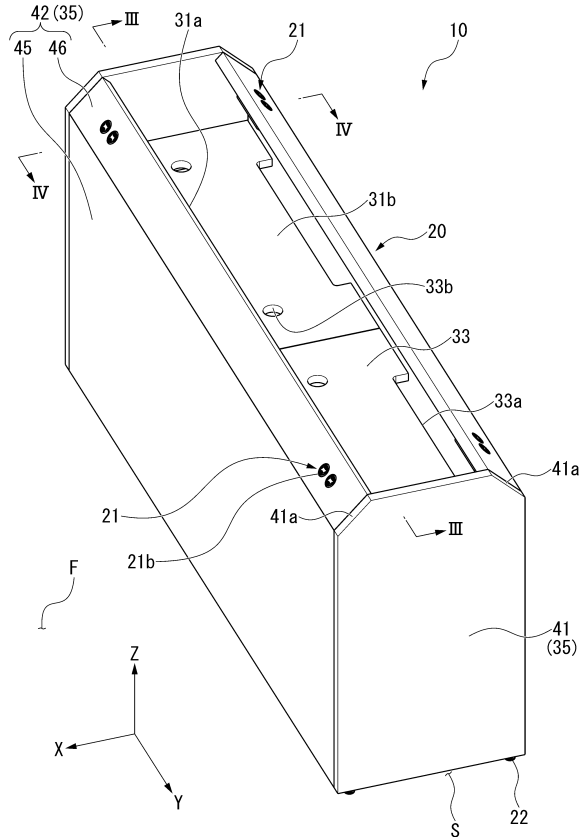
68：ベンチ

【図面】

【図1】



【図2】



10

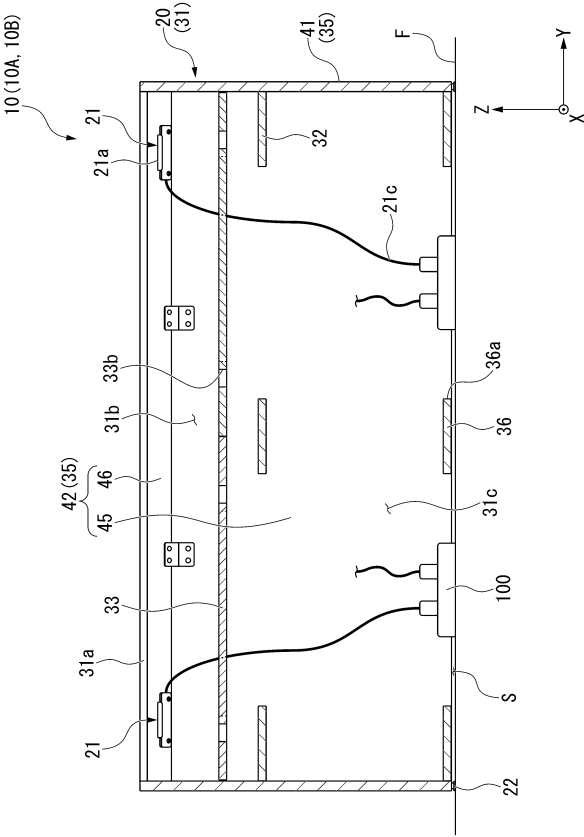
20

30

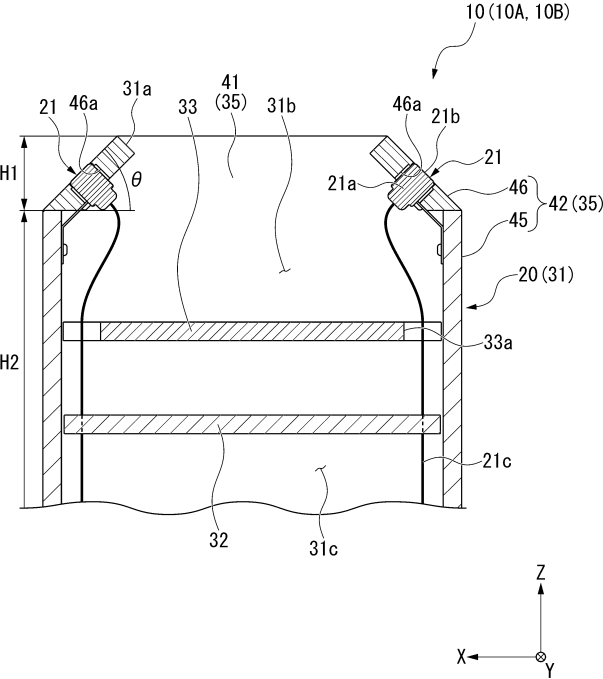
40

50

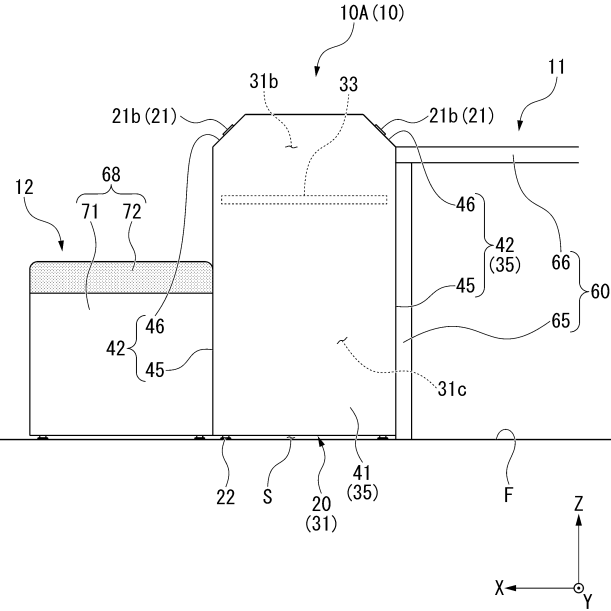
【図 3】



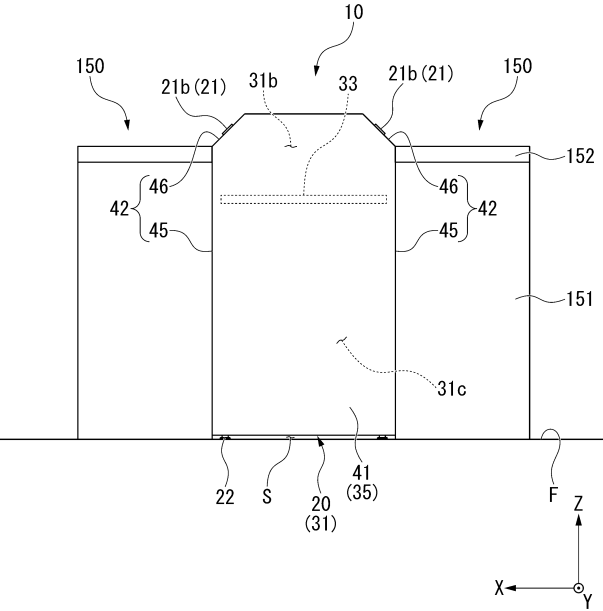
【図 4】



【図 5】



【図 6】



10

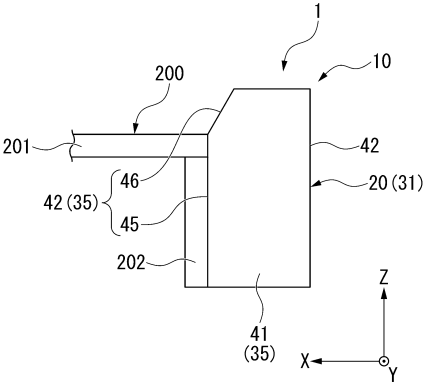
20

30

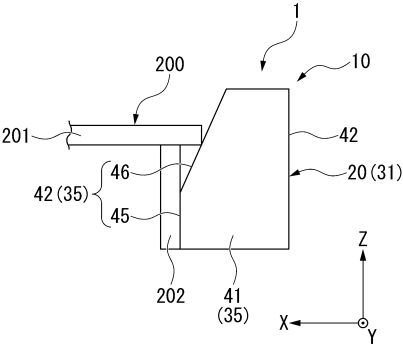
40

50

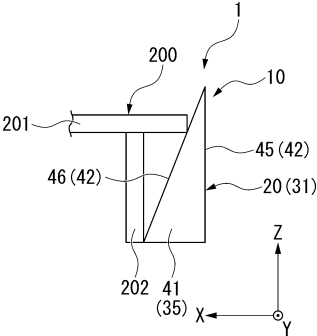
【図 7】



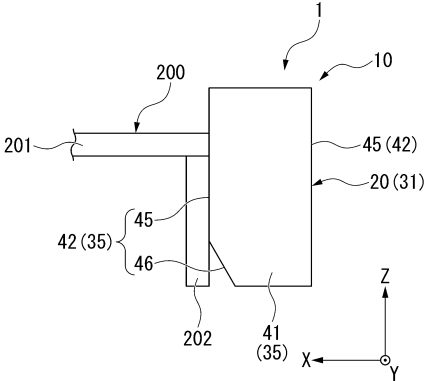
【図 8】



【図 9】



【図 10】



10

20

30

40

50